

学力向上

<p>&lt;1 テーマ&gt;</p> <p>多様な学力層の生徒に対する効果的な指導の在り方と教職員の指導力向上</p>
<p>&lt;2 取組方法&gt;</p> <p>●主な取組</p> <p>1 生徒の学力向上</p> <p>(1) 外部機関との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学教授等による出張講義</li> <li>・東京研修（1年全員、1泊2日）</li> <li>・予備校講師による出張授業</li> </ul> <p>(2) 連携型探究活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・静岡理工科大教授との共同研究</li> </ul> <p>(3) 理数科生徒による小・中学生対象科学教室</p> <p>(4) 地域研究冊子の作成、発行</p> <p>(5) 各種補講等の実施</p> <p>2 教員の指導力向上</p> <p>(1) 予備校等が主催する研修プログラムへの参加</p> <p>(2) 県外先進実践校への視察</p> <p>3 高大接続改革への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・e-ポートフォリオ対応システムの利活用</li> </ul>

<3 成果指標と実績>			
成果指標	初期値	目標値	実績（評価）
①授業への取組	2年 34.1%	38.0%	27.7%
	1年 37.0%	38.0%	36.4% (C)
①平日学習時間	2年 1.3h	1.5h	1.3h
	1年 1.4h	1.5h	1.5h (B)
①休日学習時間	2年 2.0h	2.5h	2.0h
	1年 2.1h	2.2h	2.3h (B)
③授業で力がついた実感	2年 7.0%	10.0%	3.3%
	1年 4.3%	6.0%	7.4% (B)
①国公立大学の受験者数	58人	60人	66人 (A)
②外部との連携による探究活動への参加生徒数	21人	25人	31人 (A)
②大学進学を目的とした補習等への参加生徒数	487人	490人	557人 (A)
③国公立大学の合格者数	35人	40人	44人 (A)
①公立短大、医療系専門学校受験者数	17人	20人	15人 (A)
①センター5-7型、共通テスト受験者数	80人	90人	70人 (C)
③公立短大、看護系専門学校合格者数	17人	20人	15人 (A)

<4 特徴的な取組>

■大学教授による出張講義

【概要】

2年生を対象としたガイダンスの一環として実施。大学教授等から直接講義を受けることで、今後の学習に対する取組を具体化させ、充実させる。

[来校大学（学部等）]

静岡大学（教育）、静岡県立大学（看護・国際関係）、東北大学（工）、会津大学（情報）  
高崎経済大学（経営）、千葉大学（文）



## ■東京研修

### 【概要】

1年生全員参加（1泊2日）のプログラム。地元では体験できない上級学校や研究施設、企業を見学することにより、自己の在り方を考え、主体的、意欲的に学校生活を送る契機とする。

また、キャリアセミナーとして、大学名誉教授による講演、卒業生による講話等を実施し、大学での学びについて理解を深める。

### 〔主な研修先〕

東京大学、早稲田大学、法政大学、北里大学、成蹊大学、明星大学、秀明大学、東海大学、横浜実践看護専門学校、堀端製作所、リクルート・キャリア、雪印メグミルク、警視庁、いすゞプラザ、Google、JFEスチール、朝日新聞社、東武トップツアーズ、TBS

※台風接近の影響により、予定していた横浜国立大学、上智大学、神奈川県立保健福祉大学等での研修は実施せず。

### 〔講演〕

桜美林大学名誉教授

### 〔講話〕

神田外語大学学生、国士舘大学学生、明星大学学生、千葉大学学生、明治大学学生



## <5 成果と今後の方向性>

大学出張講義は、生徒の進路意識や学習に対する意欲の高揚という点で、全体としてはよい成果を得た。しかしながら、大学進学後の学びについて、生徒が理解を深めることができた講義があった一方で、単に学校紹介に終始した大学もあったという報告もあり、大学との連携の在り方について工夫が必要か。

東京研修の企業訪問では、近隣地域でのインターンシップ等では体感できない多様な業種を訪問することで、生徒のキャリアデザインに関する視野を広げることができた。特にTBSには社員を本校に派遣してもらい、事前学習として「メディア講座」を実施する等協力していただいた。大学・専門学校・研究機関への訪問では、生徒がオープンキャンパス等ではできない経験をすることができた。

なお、この研修については、関係機関との事前調整の煩雑さ等から、次年度以降の在り方について検討中である。

新大学入試制度、新学習指導要領への対応を考えると、生徒の学力向上に関する取組だけでなく、生徒の学力を保障する教員の指導力向上が今以上に必要となる。教員研修プログラムへの若手教員の参加や先進実践校視察をとおして、教員の資質向上に向けた取組について考えていきたい。

<p>&lt; 1 テーマ &gt;</p> <p>ICT と国際交流を掛け合わせた、新たな時代に対応できるグローバル・グローバル人材の育成</p>
<p>&lt; 2 取組方法 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・管理職、教員、事務職員からなる三島南戦略会議</li> <li>・特進プレ講座の効果的運用</li> <li>・浙江省麗水市の高校との相互派遣</li> <li>・大学研究室と連携した探究学習の促進</li> <li>・夢ナビライブ参加</li> <li>・ICTを活用した授業展開の研究・推進</li> <li>・指導力向上校内研修</li> <li>・ICTを活用した教職員間のコミュニケーションの促進</li> <li>・先進校視察・大学視察</li> <li>・ICTを活かした表現力の育成および主体性の涵養</li> <li>・地域防災・資源をテーマに探究学習を推進</li> <li>・生徒・教員アンケートおよびGTEC実施</li> <li>・ICTを活用した業務改善・効率化</li> <li>・進路講演会の開催</li> </ul>

< 3 成果指標と実績 >			
成果指標	初期値	目標値	実績（評価）
①授業への取組	2年 36.4%	38.0%	36.7%
	1年 35.6%	37.0%	40.6% (B)
①平日学習時間	2年 1.06h	1.4h	1.02h
	1年 1.29h	1.4h	1.49h (B)
①休日学習時間	2年 1.18h	1.7h	1.12h
	1年 2.43h	2.5h	1.84h (B)
③授業で力がついた実感	2年 17.9%	20.0%	22.5%
	1年 16.5%	18.0%	20.6% (A)
①国公立大学の受験者数	31人	40人	33人 (B)
②外部との連携による探究活動等への参加生徒数	34人	40人	35人 (B)
③国公立大学の合格者数	13人	20人	14人 (B)
ICTで表現力が	2年 —	20人	45人
ついた実感	1年 —	18人	73人 (A)
学習意欲が高	2年 —	38人	65人
まった実感	1年 —	37人	78人 (A)
GTEC・A2以上	2年 —	45人	64人
	1年 —	30人	80人 (A)
海外研修に関心	2年 —	50人	50人
がある	1年 —	40人	48人 (A)

< 4 特徴的な取組 >

【三南戦略会議】管理職・進路課長・学年代表・事務代表

【ICT活用部会】

- ・教務課長・学年代表
- ・ICTを活用した授業展開の研究・推進、業務改善・効率化

【国際交流部会】

- ・学年代表・管理職
- ・浙江省交流推進
- ・ICT教材活用の研

【探究学習部会】

- 地域防災・資源探究促進、大学連携推進



【三南ルーブリックの作成】（本年度検討・次年度運用）

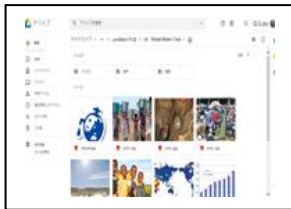
生徒に身につけさせたい資質・能力の判断基準について、全職員で話し合い、生徒・保護者にアンケート調査を行った。「知・仁・勇」をキーワードに、新しい時代に向け、「自覚」ある生徒の育成を目指す。

【進路・学習指導】



- ・夢ナビライブ参加、3年生勉強合宿@御殿場、1年生社会人講話
- ・1・2年生体験授業にて、静岡大学をはじめ国公立大学、私立大学、専門学校等の模擬講義に参加

## 【ICT活用】



- ・電子黒板機能付プロジェクター及び無線通信WiFiを全普通教室・共通履修室に設置
- ・クラウド（Gスイート）を利用した情報共有、授業活用
- ・教員一人一台iPad、生徒貸出用iPad40台を用いた双方向授業（グループ活動等での活用）
- ・中学生一日体験授業における映像による学校紹介（中学生・保護者の熱中症対策等）

## 【国際交流】



- ・中国浙江省麗水学院高級中学より15人の生徒が本校を訪問、本校生徒宅にてホームステイ
- ・両校生徒合同で、家庭科調理実習及び美術授業参加、部活動見学等を通じたより深い交流の実施
- ・創立100周年記念式典において、相手校校長からのお祝いのメッセージを本校中国語選択生徒が中国語で代読

## 【探究学習】



- ・「地域防災・資源探究」をテーマに、静岡大学教育学部藤井研究室と連携した、「防災×遊び」企画を実施
- ・藤井准教授による防災講話及び研究室学生によるグループワークから得たアイデアをもとにした、近隣保育園の園児に対する防災についてのアドバイス
- ・近隣保育園約40か所で、グループごとに遊びと防災教育を兼ねた実習の実施
- ・地域の観光資源についての調査をもとにした、文化祭でのモザイクアートの展示

## < 5 成果と今後の方向性 >

三南戦略会議を中心に、ICT、探究学習、国際交流の3部会により、学校教育環境の整備や活性化の試みの継続

### 【ICTの活用・推進】

昨年度、創立100周年記念事業による電子黒板機能付プロジェクター設置を行い、全教員にiPadの配布を完了した。Googleのクラウドサービスを用いた教員間の情報共有、授業での活用の体制も整備した。今後は、業務負担軽減及び更なる授業力向上に向けた、全教職員による効果的なICT活用力向上が課題である。業務の効率化、ICTを活用した授業改善を進める必要がある。

### 【国際交流の推進】

昨年度は15人の生徒が中国を訪問し、本年度は、中国浙江省からの15人の生徒を受け入れた。この交流を通して、グローバル・グローバル意識の涵養を進める。合わせてICT先進校としても教職員間の授業交流等も進める。そのためにも、常時インターネットに接続可能な環境を生かし、ICTを活用した日常的な交流の機会を検討する。

### 【探究学習の推進】

「地域防災探究」をテーマに、防災教育を通して大学研究室等との連携を深め、進路・学習意欲の涵養に努める。また、地域防災をきっかけとして地域との連携の機会を増やし、地域貢献の意識を育てていく。「地域資源探究」をテーマに同窓会とも連携し、地域に根差した高校としての位置を固めていく。

### 【ルーブリックに基づく指導体制】

これからの時代に求められる資質能力を測る評価基準としてのルーブリックを定め、学校内外に明示することで、教職員の生徒への指導に対する共通理解を図り、学校教育力の向上を目指す。

<p>&lt;1 テーマ&gt;</p> <p><b>富士東高校教育改革対応プロジェクト</b></p> <p><b>～実力を伸ばす～</b></p>
<p>&lt;2 取組方法&gt;</p> <p>進路課長を委員長とした教職員 8 人（管理職 3 名、教務課長、学年主任）を構成員とする「コアスクール委員会」を中心に、各学年主任と連携を図りながら取り組んでいる。「生徒の主体的、自発的な学習意欲及び学力の向上」「教員の指導力向上」「大学入試改革への対応」「探究学習、A L や I C T 活用授業の推進」を目標に下記の取組を展開し、魅力ある学校づくりを目指す。</p> <p>&lt;生徒の学力向上&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 次代を生きるための<b>進路探究学習</b></li> <li>2 <b>東雲学習会</b></li> <li>3 外部講師による小論文指導</li> <li>4 <b>検定チャレンジ（数学マラソン・英語検定）</b></li> <li>5 スカイプによる英語力の向上（新規）</li> </ol> <p>&lt;教員の指導力向上&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業力向上研修</li> <li>2 ICT活用、アクティブ・ラーニング授業による授業改善</li> <li>3 進路指導力向上研修</li> <li>4 先進校の視察訪問</li> </ol> <p>&lt;高大接続改革&gt;</p> <p>県内大学等との連携</p>

<3 成果指標と実績>			
成果指標	初期値	目標値	実績 (評価)
①授業への取組 2 年 1 年	23.0% 30.6%	25.0% 32.0%	15.6% 24.6% (C)
①平日学習時間 2 年 1 年	1.16h 1.51h	1.5h 1.8h	1.81h 1.43h (B)
①休日学習時間 2 年 1 年	2.15h 2.63h	2.5h 2.8h	2.68% 2.22% (B)
③授業で力が ついた実感 2 年 1 年	6.7% 5.6%	7.0% 6.0%	8.6% 12.8% (A)
①国公立大学の 受験者数	155 人/ 267 人	160 人/ 273 人	188 人/ 273 人 (A)
②外部との連携に よる探究活動への 参加生徒数	6 人	210 人 (1 年生)	213 人 (A)
②大学進学を目的 とした 3 年生の夏期 講習への参加生徒数 (学年における割合)	185 人 (67.8%)	205 人 (75.0%)	232 人 (A)
③国公立大学の 合格者数 (学年における割合)	64 人 (24.0%)	70 人 (25.6%)	63 人 (B) (22.8%)
③当該年度での初回 及び最終回模試にお ける「学習到達ゾ ン」の伸び値の合計	年度初 回模試 の値	増加 (+の値)	2 年 -0.44 1 年 -0.50 (C)
③県内国公立大学 合格者数	30 人	35 人	26 人 (B)

<4 特徴的な取組>

次代を生きるための「**進路探究学習**」

6 月 20 日(木) 1 年生全員を対象に、キャリア教育講演会を実施した。法政大学情報科学部デジタルメディア学科の藤田 悟 教授を講師に迎え、「人工知能と社会～近未来の世界を考える～」



と題し、人工知能の現在までの発展と今後予想されるコンピューターが行う労働、人間だけにしかできない業務など、デジタル技術を紹介しながら楽しく説明していただいた。A I の技術進歩が人間社会に及ぼす影響を恐れるのではなく、どのように便利に利用していくか、情報化社会で生きる上での人間としての在り方について学習した。夏季休業中に個々に探究活動を行い、レポートにまとめ、9 月



中旬にグループ探究を行った。職業をどのように選択すべきか、今後の社会にどのように対応していくのかなど、周囲の意見を参考にしながら、自分自身の進路をみつめるよい機会となった。

### 自発的な学習意欲を醸成する「東雲学習会」

定期試験前の5日間、放課後から午後7時半まで、冷暖房が完備した東雲館（同窓会館）を「自学自習の場」として開放し、生徒に主体的な学習環境を提供している。地域人材（数学・英語の元教員）に講師を依頼し、生徒の質問に対応している。

1・2年生に実施したアンケート調査では、190人が参加したことがあると答えている。参加した生徒のうち、162人がとても良い、良いと回答した。学習した教科は数学が159人と最も多く、111人が教員から数学を教えてもらったと答えている。「先生に教えてもらってわかりやすかった。」「周りと一緒に勉強できる環境があってありがたい」などの意見がある反面、「しゃべっている人がいて気になる」「騒がしい」などの意見も寄せられた。教えあう協働的な学びができる環境と落ち着いた環境を求めている両方の生徒が学習会を利用しているので、学習スペースを分けるなどの工夫が今後必要である。

テスト前の学習指導に地域人材を活用する目的は第一に生徒の学力向上であるが、放課後の学習支援を学校外の力を活用することで先生方の時間外勤務減少の効果も期待できる。今後、保護者を巻き込んだ運営が可能になれば、活用の幅が広がると考えている。



### 学習意欲・学力向上を醸成！ 本校独自数学検定「数学マラソン」

本校独自の数学検定を始めて今年で5年目を迎えた。数学力の向上を図ることを目標に、数学Ⅰ・ⅡABの問題集から100問を精選し、1・2年生の2年間で1級（100問制覇）の取得をめざす。毎週1日各学年曜日を決めて1問ずつ問題にチャレンジする。できなかった場合は、昼休みか放課後に再チャレンジできる。クラス対抗も行い、互いに競い合い励まし合いながら実力をつけていく協働学習活動にもなっている。合格証書取得を目指して学年全体が盛り上がっている。

クラス掲示物

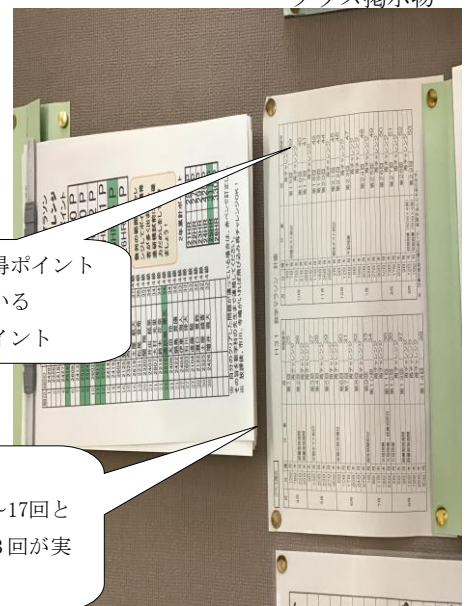
- 1級：100問制覇
- 2級：75問制覇
- 3級：50問制覇
- 4級：25問制覇

100問全てが講義室のレターケースに整理されている



クラスの獲得ポイントが示されている  
280～420ポイント

年間計画  
10月は第15回～17回と再チャレンジ3回が実施される



#### <5 成果と今後の方向性>

本校のコアスクールでは、さまざまな取組を実施する中で、学力の向上と主体性の育成をはかり、これからの社会を生き抜く力を身につけさせることを目標に掲げている。東雲学習会は1・2年生を中心に自主的に参加したり、数学マラソンにおいては互いに切磋琢磨しながら再チャレンジしたりと、主体性の表れが見られる。また、コアスクールの指定を受け、教員の研修費用が確保されたことで、研修会等への参加が容易であり、積極的に情報を収集し、共有し生かそうとする流れが生まれている。さらに、探究学習、東雲学習会や小論文指導においては外部人材を導入した取組を行っているが、チーム学校として長いスパンで継続できるように工夫していく必要がある。

<b>&lt;1 テーマ&gt;</b>
中高一貫校及び芸術科設置校の特色を生かした学力向上の取り組み
<b>&lt;2 取組方法&gt;</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>外部機関との連携 (大学生・非常勤講師等の活用) (生徒による探究活動への参加) (中高一貫教育・芸術科の研究) (教員による大学の訪問) (教員による各種研修会への参加) (大学教員を招いての研修会の実施)</li> <li>四年制大学等訪問 (東京藝術大・静岡大・常葉大)</li> <li>先進校視察及び芸術研究会への参加 (横浜翠嵐高校・鎌倉学園中高)</li> <li>授業力向上研修 (予備校や授業研修会への参加) (動画学習システムの活用)</li> <li>学校間交流 (清水特別支援高校との交流)</li> </ul>

<b>&lt;3 成果指標と実績&gt;</b>				
成果指標		初期値	目標値	実績（評価）
①授業への取組	2年	38.8%	40.0%	26.2% (C)
	1年	28.9%	30.0%	34.2% (A)
①平日学習時間	2年	1.4時間	1.6時間	1.3時間 (C)
	1年	1.4時間	1.5時間	1.9時間 (A)
①休日学習時間	2年	2.1時間	2.3時間	1.9時間 (C)
	1年	2.2時間	2.3時間	2.9時間 (A)
③授業で力がついた実感	2年	9.0%	10.0%	11.0% (A)
	1年	9.9%	12.0%	10.0% (C)
①国公立のべ受験者数		111人	120人	86人 (C)
②外部との連携による探究活動への参加生徒数		5人	10人	82人 (A)
②大学進学を目的とした補習等への参加生徒数		90人	100人	105人 (A)
③国公立大学の合格者数		35人	38人	30人 (C)
学力到達度調査評価A以上の割合		31.6%	33.0%	35.0% (A)
芸術系四年制大学の合格率		66.7%	70.0%	56.0% (C)
授業改善研修の教員満足度		48.0%	60.0%	90.0% (A)
A L を実践した教員の割合		55.0%	60.0%	100.0% (A)

**<4 特徴的な取組>**

**○西川 純先生による講義（8/5）  
（上越教育大学大学院教授）**

アクティブラーニングを実現する考え方の一つである「学びあい」について、スライドを交えながら講義を受けた。

教科の壁を乗り越えるための優位性を話された。教師集団がアクティブラーニングで学ばない限り、カリキュラムマネジメントで求められていることは実現しない。

自分にはない能力を持っている人たちと繋がり、その人たちの能力を生かせる人が幸せになる。そのために「学びあい」は有効な学習方法である。



[熱弁をふるう西川先生]

**○清水特別支援学校音楽交流（10/7）**

清水特別支援学校高等部1年生と本校芸術科1年音楽専攻の生徒が交流を行った。

特別支援の生徒が合唱したCOSMOSを聴き、感想を伝えた。続けて、本校生徒が特別支援の生徒の中にばらばらに入り、一緒に合唱した。その後、声楽アンサンブル、フルート独奏、サクソフォン二重奏など、ミニコンサートを実施した。

特別支援の生徒の音量が大きく驚いたが、本校生徒にとって大きな学び方の場となった。

[両校生徒による交流風景]





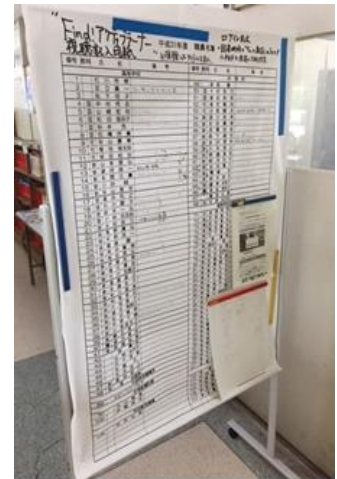
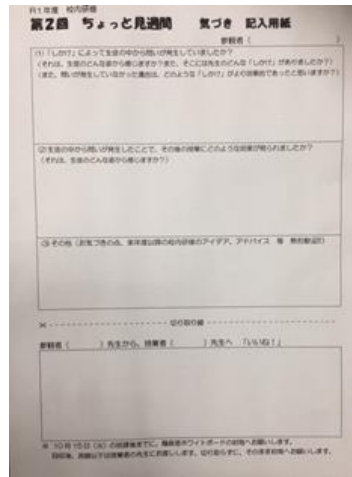
○「ちょっと見週間」

(Findアクティブラーナー) (10/8~18)

本年度第2回目の「ちょっと見週間」(指導案なしで相互に授業を参観しあい、気づきを交換する)を利用して、Findアクティブラーナーの視聴調査を実施。視聴状況を見える化して、活用を促した。

11月には、第2回「ちゃんと見週間」(略案を用意しての相互授業参観)が予定されており、意見を交換し合い授業力の向上に努めていく。

[ちょっと見週間 気づき記入用紙]



○横浜翠嵐高・鎌倉学園中高訪問(10/16)

横浜翠嵐高校では、学校改革の具体的流れとシステムづくり・模試の振り返り方を、鎌倉学園では志望集団づくり・面談シート・中高一貫進路指導について、ご教示いただいた。

令和元年度 土曜講習 II期 講座一覧表				
II期	期別	科目	担当	講座内容
1年	1	数学	数学(666)	数学と人(人)の関わり 数学の歴史と発展 数学の応用と発展
	2	国語	現代文・古文	漢文と小説 現代文と小説
	3	英語	コミュニケーション講座1・英漢辞書	英漢辞書の活用 英語の基礎
	4	英語	コミュニケーション講座2	英漢辞書の活用 英語の基礎
2年	1	外国語	英語	英検準1級対策 英検準1級の勉強法と対策 英検準1級の勉強法と対策
	2	数学	数学(超高)	数学の応用と発展 数学の応用と発展
	3	国語	古典	古典の活用 古典の活用
	4	数学	数学(文系)	数学の応用 数学の応用
3年	1	国語	現代文	現代文の活用 現代文の活用
	2	英語	英語	英語の活用 英語の活用
	3	数学	数学(文系)	数学の活用 数学の活用
	4	英語	英語	英語の活用 英語の活用



[横浜翠嵐高校の授業の様子]

[横浜翠嵐高校土曜補習計画]

<5 成果と今後の方向性>

2年目となった今年は、昨年実施した事業で有効だったものは継続して実施している。ブラッシュアップして実施した大学訪問は有益だった。3大学で担当教授と懇談する時間を設定できたため、高大接続に関わるAOや推薦入試での「特別な活動成果」の具体的なレベルや内容について理解を深めることができた。今後、各大学が行っている高大接続教育プログラム等への参加を含め、検討していく必要がある。

授業力向上研修として教員を予備校等に派遣しているが、各教科での事後研修を行う時間を十分に確保することが重要である。いずれにせよ、どのように授業力が向上したかを検証しなければ次に繋がらない。

また今回は、教科研修以外に「大学受験生の心理状態の理解とメンタルサポートの在り方」というテーマで研修会に参加させた。3年部並びに教育相談室で共有を図り活用していきたい。

先進校訪問では、訪問先で知りたい情報と今後の活用を考えて参加教員の人選を行った。事前に訪問校の実践を調べあげ、質問内容を練ってから訪問することで効果を上げるように工夫した。

Findアクティブラーナーと駿台サテネットは、研修効果の測定が難しい。Findアクティブラーナーは、研修課の提案で時期を決めて全職員に視聴を呼びかけ、視聴したタイトルをホワイトボードの一覧表に記入することで、活用状況を可視化し活用を促した。

大学生を活用した事業は、効果的で生徒や教員の評価も高かったが、学校の補習計画に位置付けられていないため、学生の募集や運用面で難しさを感じた。長期休業中の補習にコアスクール事業をもう少し絡めたかった。本校の補習計画は、中・高とも学年部にゆだねられている面が大きく、今回のように中・高や学年横断的な事業を実施しようと考えたとき、調整の難しさがある。今後は、さらに生徒や教職員のニーズを広く吸い上げて取組の計画を立案し、事務室と連携しながら事業を展開していきたい。

<1 テーマ>

深い学びにつながる「社会とのつながりを意識した探究活動」～学力の3要素は、探究的な学習により育成される

<2 取組方法>

1 探究学習

1年生は静岡市を題材とした地域の問題解決学習を行っている。校外にフィールドワークに出かけ、市役所や、県の施設、民間企業などから話を聞いた。現在は発表に向けて準備を進めている。

2年生は沖縄修学旅行の6分野の探究テーマの中から各自テーマを決め、リサーチを進めている。今後現地で生の声を聴くことで学習を深める。

3年生は自らの進路と社会とのつながりを意識したキャリアプランの作成を進めている。

2 教科

各教科で育てたい思考力を明らかにし、その評価方法を研究する。

<3 成果指標と実績>

成果指標		初期値	目標値	実績（評価）
①授業への取組	2年	25.4%	30%	19.5%
	1年	24.6%	30%	35.6% (B)
①平日学習時間	2年	1.4h	1.8h	2.0h
	1年	1.6h	1.6h	1.8h (A)
①休日学習時間	2年	2.1h	2.7h	2.4h
	1年	2.5h	2.7h	3.2h (A)
②授業で力がついた実感		1年	5.4%	4.3%
		2年	4.2%	5.1% (B)
①国公立大学の受験者数		140人	150人	241人 (A)
②外部との連携による探究活動への参加生徒数		0人	284人	284人 (A)
③大学進学を目的とした補習等への参加生徒数		2,867人	3,010人	2,677人 (C)
④国公立大学の合格者数		94人	100人	60人 (C)
①社会の出来事に興味を持つ生徒の割合		22.8%	25%	20.2% (C)
②学習と社会とのつながりを実感する生徒の割合		16.0%	20%	20.6% (A)
③思考力の平均値		3.00	3.10	3.18 (A)
④問題解決力の平均値		3.07	3.16	3.08 (C)

<4 特徴的な取組>





< 5 成果と今後の方向性 >

今年度は、本校で育てる生徒像を明らかにすることから取り組んだ。生徒の実態に応じてどのような力を育むことが必要なのかが明らかにする必要があったためである。

6月に教員研修を行い、本校生徒の良さや課題を話し合い、さらに、育てたい生徒は、どのような資質・能力を持った生徒なのか、話し合った。その結果を、静岡城北高校グランドデザインとしてまとめた。城北高校で生徒に身に付けさせたい力の一つに、あらためて「考える力」があげられた。考える力の内容は、(1)批判的思考力、(2)協働的思考力、(3)創造的思考力であり、昨年度の研究結果を引き継ぐ形で改めて定義し、この3つの考える力を付ける方策として、コアスクール事業を位置づけることを再確認した。

なお、今年度は、思考力を評価するための業者による評価テスト（GPS）は実施を取りやめることにした。授業との関連がなく、値段が高いことが理由である。今後、各教科で育成する思考力とその評価方法をまとめることにしている。そのための研修を外部から講師を迎え10月17日に実施した。今年度中に一定のまとめが出来上がることを目標にしている。

<1 テーマ>

学習指導要領の改訂及び高大接続に対応する指導体制の整備と進学実績の向上

<2 取組方法>

- ・ 学年、分掌、教科等横断型のコアスクール委員会を編成し、校内における指導体制の中核的役割を果たす。
- ・ 本校生徒・保護者・中学生・中学生保護者等を対象に、中央コアスクールセミナーⅠ、Ⅱ、Ⅲ、グローバルコアセミナーを開催して、本校理解促進、魅力発信、情報公開、生徒の学力向上、英語4技能教育推進を実践する。
- ・ 先進高校や大学等への調査訪問や関係する講演会、研究会等にて調査情報収集を行い、学校の課題解決に向けての教員の指導力向上を図る。

<3 成果指標と実績> 斜体字は昨年度の目標値・実績

成果指標		初期値	目標値	実績(評価)
①授業への取組	2年	28.0%	37%	35.2% (B)
	1年	35.0%	38%	28.3% (C)
①平日学習時間	2年	1.8h	2.3h	1.7h (C)
	1年	1.7h	2.3h	1.8h (C)
①休日学習時間	2年	2.7h	3.5h	2.7h (C)
	1年	2.7h	3.5h	2.7h (C)
③授業で力がついた実感	2年	6.0%	20.0%	5.6% (C)
	1年	4.0%	20.0%	3.8% (C)
①国公立大学の受験者数		171人	180人	158人 (C)
②外部との連携による探究活動等への参加生徒数		2人	40人	41人 (A)
③大学進学を目的とした補習等への参加生徒		120人	170人	226人 (A)
④国公立大学の現役合格数		102人	110人	77人 (C)
①進路実現イメージが具体化され、学習意欲と進路希望が喚起された生徒			70%	76% (A)
①難関大受験のための学習方法等へのイメージを持つことができた生徒			70%	94% (A)
②コアスクールセミナーの実施回数			6回	10回 (A)
③実用英語技能検定2級、準2級の受験者数・合格者数		71人	300人	429人 (A)
		51人	100人	260人 準一級含む 84.8%
(CEFRがA2以上の生徒割合)			(50%)	
④センター試験5教科6科目型受験者数		204人	240人	209人 (C)
②難関大、ブロック大等の受験者数と合格数		28人 11人	35人 15人	17人 (C) 8人

<4 特徴的な取組>

グローバル中央セミナー

○福島県ブリティッシュヒルズへ61人の生徒を派遣して、英語4技能を発揮しながら、異文化理解活動を行った。研修の満足度は満足90%、だいたい満足8%。「とにかく英語を話さしかないので必ず話せるようになる」

「英語を学ぶのがこんなに楽しいとは思わなかった」「来年も絶対に行きたいと思った」(生徒の声)

○英検準1級・2級・準2級の受験者数300人以上を達成。



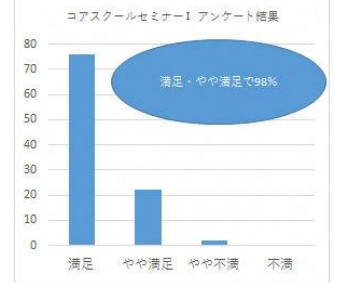
探究的学びを育む中央セミナー

7月4日(木)静岡文化芸術大学の曾根秀一准教授を招き、「企業の経営戦略・組織論に関する研究紹介と経済、経営学を目指す高校生に期待すること」を聴講した。経営・経済を志す93人の生徒が熱心に聞き入った。



## コアスクールセミナーⅠ

○7月31日(水)、焼津文化会館にて3年生を対象に、外部講師によるセンター試験対策の要点や方法、教材、学習スケジュール等を主な内容とした英・数・国の学習会を行った。アンケート結果：満足・やや満足で98%。  
「良い勉強法、教材が具体的にわかり、自分ほどの段階か、どういうことが必要かというのがイメージできた。」(生徒の声)



## コアスクールセミナーⅡ

9月9日(月)~11日(水)の3日間、外部講師による英・数・国の国公立2次試験対策の学習会を行った。最新の傾向と対策を話していただくことで、センター試験後の学習についてイメージを掴む機会となった。



## コアスクールセミナーⅢ

○12月20日(金)2年生を対象に、外部講師による大学入学共通テストの要点や教材、学習スケジュール等を主な内容とした英語と数学の学習会を行う。  
○3月23日(月)に校内で大学入試共通テストのトライアル問題に挑戦する。春季休業中の学習計画に活かし、3年生への弾みをつける狙いである。

## 保護者コアスクールセミナー(2年生対象)

2月13日(木)、2年生と保護者を対象に、地方国立大学の魅力に関して富山大学の教授に講演していただき、進路実現への意欲を高める。



## ミニ進路講話(1年生対象)

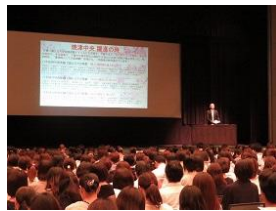
10月24日(木)、本校卒業生・保護者等、本校に関係のある方々を講師に招き、様々な職業の楽しさ、厳しさなど生の声を聞き、生徒自身の職業や進路を考える機会とした。



## 一日体験入学における中学生保護者説明会

8月6日(火)の中学生一日体験入学の中で中学生の保護者に対し、変化する大学入試に対する本校の特徴的な取組を紹介した。

- ①スパイラルアッププログラム
- ②SDGs探究活動
- ③Classiの導入
- ④コアスクールセミナー
- ⑤中央セミナー



## 大学模擬授業(1・2年生対象)

12月12日(木)22名の大学の教授・講師を招き、志望する系統学部での体験授業を受講することにより、進路意識を高め、高校時代に学んでおくべきことを考える機会とする。



## コアスクールセミナーⅣ・Ⅴ

○学校公開日(11月9日(土))の中で、本校の取り組みを紹介する。特に、夏に参加したブリティッシュヒルズにおける貴重な英語研修の報告を充実させ、中学生に紹介する。

○3年生に対して保護者会を実施した。(9月12日(木))まず、大学教授を招いて、地方国立大学の魅力を語っていただき、さらに、横浜国立大学、三重大学、弘前大学に進学した卒業生からのビデオレターを上映した。また、卒業生の親にも講演をしていただき、当時の親の心境を語っていただいた。

## <5 成果と今後の方向性>

本校のコアスクール事業の成果として校内の進路へ向けての体制が組織化されたことがあげられる。学年・分掌等を越えた組織であるコアスクール委員会が意欲ある中堅・若手職員を中心として常に学校の進路指導をリードする立場にある。特にコアスクールセミナーに関してはより適切な時期に必要な指導が行われるようになり、「難関大受験のための学習方法のイメージ」を9割以上の生徒が持つことができた。また、コアスクールの予算による県外視察をもとに新たな「総合的な探究の時間」の年間計画を構築することができた。各指標は全般的に評価が高くないが、「平日・休日の学習時間」については1・2年生とも昨年度同時期よりすべて数値的には向上している(0.1~0.5h)。「進路実績」については最終的な目標値の実現に向けて取組を加速させたい。なお、指標のうち「英検の実績」については本校が英語民間試験としてGTECを推奨する関係でCEFRを指標とする形に見直す予定である。コアスクール事業の今後の方向性としては、現在作成中の「低学年(入学時)指導プランの作成」や、3年間のPDCAサイクルを踏まえた「進路指導のスパイラルアッププログラム」を完成させる必要がある。また、その完成が終わりではなく、常に最新の状態を踏まえた指導の改善を絶やさないと重要と考えている。



<p><b>&lt;1 テーマ&gt;</b></p> <p>生徒の思考力・判断力・表現力を育て、主体的な学びを引き出す効果的な教育活動の実践 ～授業改善の推進・探究活動の充実等による生徒の学力向上を目指して～</p>
<p><b>&lt;2 取組方法&gt;</b></p> <p><b>実施体制</b></p> <p>○「アクティブ・ラーニング型授業」や総合的な探究の時間の実践等のために、分掌横断的に設置した「総学・研修担当」を母体として平成30年度から「コアスクール推進委員会」を新たに組織。</p> <p><b>生徒の学力向上</b></p> <p>○総合的な探究の時間における活動として、藤枝市と連携し、地域の課題発見、分析を行い、提言をすることにより、思考力・判断力・表現力などの育成を目指す（「ふじプロ」の実施）。</p> <p>○進学予備校講師による「スタートアップセミナー」及び「集中講座」を実施し、受験勉強等のスキルなどを学ぶとともに、各種進路講演会等を開催し、進路意識の啓発を図り、生徒の学力向上を目指す。</p> <p><b>教員の指導力向上</b></p> <p>○「アクティブ・ラーニングを取り入れた授業公開強化月間」を設定し、全職員による授業実践、ユニットによる相互授業参観と授業評価会を実施する。</p> <p>○「カリキュラムマネジメント」や「アクティブ・ラーニング型授業」、「ICT教育」について先進的な取組をしている県内外の高校を視察し、情報の収集及び共有を図る。</p> <p>○全職員対象に、授業改善に資する校内研修会を実施する。</p> <p>○進学予備校主催の教員対象の授業力向上セミナーに5教科の教員が参加し、その内容を教科内で共有する。</p> <p><b>高大接続改革への対応</b></p> <p>○高大接続改革全般にわたる情報収集と共有、及びその対応等に関する検討を行う。</p> <p>○学習支援クラウドサービス「Classi」による、本校生徒の活動実績の蓄積方法に関する制度設計とその実践に取り組む。</p>

<b>&lt;3 成果指標と実績&gt;</b>			
成果指標	初期値	目標値	実績（評価）
①授業への取組 2年 1年	23.7% 30.3%	28.0% 35.0%	23.3% 26.7% (C)
①平日学習時間 2年 1年	0.92h 0.98h	1.3h 1.3h	1.43h 1.44h (A)
①休日学習時間 2年 1年	1.55h 1.74h	2.0h 2.0h	2.38h 2.33h (A)
③授業で力が ついた実感 2年 1年	2.6% 8.2%	8.0% 13.0%	5.9% 5.0% (C)
①国公立大学の受 験者数	49人	55人	41人 (C)
②外部との連携に よる探究活動等 への参加生徒数	6人	200人	205人 (A)
③大学進学を目的 とした補習等へ の参加生徒数	174人	185人	157人 (C)
④国公立大学の合 格者数	26人	26人	12人 (C)
③自分で考えたり 表現したりする 機会が増えたと 実感（2年・1年）	60.0% 65.0%	70.0% 70.0%	64.0% 75.0% (B)
③進路希望が明確 になり、学習習慣 ができてきた （2年・1年）	47.0% 51.0%	52.0% 56.0%	49.0% 54.0% (B)
③アクティブ・ラー ニングを意識し、 授業改善に取り 組んだ教員	71.1%	100.0% %	81.0% (B)
③先進校視察・スキ ルアップ研修・セ ミナー等の内容 を授業改善に役 立てた教員	71.1%	100.0% %	83.0% (B)
<p>※ 実績（評価）については、「高校生の自発的学習状況等に関するアンケート調査」等、今後、調査・検証した上で記入し、再提出する。</p>			

## <4 特徴的な取組>

### 生徒の学力向上

#### 探究活動「ふじプロ」の取組

藤枝市企画政策課の担当者から、藤枝市がより発展していくために、①地域の商店街の活性化 ②訪日客が増える中でどのように対応していくか ③オリンピック・パラリンピックをきっかけにしたスポーツの振興 ④食品ロスの減少の4つの課題を提示していただき、改善に向けて現状の調査、企画作りに取り組んでいる。



#### 3年生夏のセンター対策セミナー

7月19日(金)本校会議室にて、「センター対策のコツ」伝授と題して、英語、国語、数学の3科目を大手予備校講師によるセミナーを開催した。対象は本校3年生の特進クラスの生徒及び希望者約100名。生徒からは「推薦教材を教えてくださいました」「勉強法が分かってよかった」等満足度の高いセミナーになった。



### 教員の指導力向上等

#### 授業力向上セミナー教科研修会

夏季休業中に、国・地公・数・理・英の教員一名ずつが首都圏で開催された予備校主催の「夏期教育研究セミナー」に参加した。新入試に対する見解や対応策など、それぞれの科目でまとめた内容が職員会議で報告された。

#### アクティブ・ラーニングの実践と相互授業参観

1学期は、主に同じ教科内で4人組のユニットを編成し相互に授業を参観した。教科としての専門的な視点から授業を参観することで、これまで気付かなかった分析ができその後の教科会での活発な意見交換につながった。

2学期は前後半に分け、前半は各教科1人ずつ研究授業を行った。同じ教科はもちろん、他教科の教員も多く参観した。後半では、前半と比較しどのように授業改善がなされたかを検証し、互いの指導力向上を目指す。



### 生徒・保護者・教員向け研修

#### 「キャリア教育講演会」「地方国立大学の魅力」説明会

7月25日(木)本校会議室にて、静岡中央高等学校から講師を招き「キャリア教育講演会」を開催した。今後の進路について大学進学先の社会での関わり方、生き方を巨視的にとらえる機会となった。また、10月11日(金)には鳥取大学から講師を招き説明会を行った。保護者にも大変好評であった。



## <5 成果と今後の方向性>

探究活動「ふじプロ」については、地域の現状を知るために現地を見学に行くなどして調査を進め、施策提言を目指してグループワークに取り組んでいる。今後も主体的、協働的に取り組み、課題発見力、思考力を伸ばし、自身の成長を実感できる活動としていきたい。教員の指導力向上については、昨年同様、相互授業参観・意見交換を活発に行っており、今後の授業改善に役立つと思われる。

また今年度は、外部講師を招いた講演会・説明会を複数回実施している。生徒・保護者・教員すべてにとって有益であったため、来年度も継続していきたい。

<1 テーマ>

新たな社会を創る人を育てる  
～主体的に挑戦し続ける  
新たな学びの創造～

<2 取組方法>

- ・土曜補講、放課後補講、夏期補講、2月補講
- ・志榛地区合同補講(職員による見学含む。)
- ・English Camp と English Learning Program
- ・しまこう地元発見講座
- ・「Find！アクティブラーナー」を活用した授業改善
- ・台湾研修
- ・教員研修会
- ・各種セミナー報告会
- ・しまこう学問探究ナビ
- ・入試改革に向けた学校改革と保護者進路講座
- ・アンケート調査等による連携図の検証

<3 成果指標と実績>

成果指標		初期値	目標値	実績(評価)
①授業への取組	2年	28.7%	35.0%	20.1%
	1年	29.2%	35.0%	31.7% (B)
①平日学習時間	2年	1.36h	2.00h	1.60h
	1年	1.32h	1.45h	1.68h (B)
①休日学習時間	2年	1.79h	2.25h	2.42h
	1年	1.78h	2.00h	2.58h (A)
③授業で力が ついた実感	2年	9.7%	10.0%	5.03%
	1年	3.1%	7.0%	7.90% (B)
②国公立大学の受験者数		107人	125人	89人 (C)
②探究活動への生徒参加数		394人	405人	403人 (B)
②補習等への生徒参加数		813人(注)	820人	931人 (A)
③国公立大学の合格者数		43人	50人	42人 (B)
②センター5-7形成率		56.7%	60.0%	62.9% (A)
②個別指導受講者数		58人	70人	57人 (B)
③GTEC ST グレード3以上		11人	35人	21人 (B)
③英語でプレゼンできる生徒		91人	100人	79人 (B)
②各種補講等参加者数		19人	22人	20人 (B)

<4 特徴的な取組>



**志榛地区合同補講**

他校生と真剣勝負！参加者117人  
島田高校76人、藤枝東高校17人、  
焼津中央高校19人、川根高校5人

※教職員の参加も多数  
授業改善に向け充実した合同補講

**English Camp !**

イギリス人教員や外国人スタッフに囲まれて生活を送りながら、外国人とコミュニケーションできる英語力を見につけるための様々な体験学習を実施





## 学問探究ナビ！



全国の17大学から様々な分野の講師を招き、2講座を受講した。

大学の講義に触れ、学問的な刺激を受けることで、知的好奇心が喚起された。

自ら進路を決定する上で必要な様々な情報を直接入手した。



## 保護者進路講座

土曜日の補講に合わせ開講

大学入試のしくみや進路情報を保護者に提供  
講座日を2日設けることで参加率が向上

	内容	講座日
第1回	進学基礎用語	5/11,5/25
第2回	学部・学科	6/8,6/15
第3回	大学入試の流れ	6/29,7/20
第4回	大学進学をとりまく環境	10/5,10/26
第5回	模試と偏差値	11/16,11/30



## 台湾研修会



日系企業での研修や台湾の大学生との交流等を通して、異文化理解とコミュニケーション能力が向上



## <5 成果と今後の方向性>

コアスクール事業を通じて様々な体験をすることで、生徒は学習や進路に対して積極的に取り組む意識が向上している。今後は、本校のテーマである「主体的に挑戦し続ける新たな学びの創造」を実現するため、各種セミナーや大学訪問で得られた情報の共有を図るため校内研修を充実させる。また、学習指導と進学指導の成果を客観的に検証することで、課題を明確にして次年度の更なる充実を期す。

<p>&lt;1 テーマ&gt;</p> <p>地域と連携した教育活動を通して、「地域についての認識を深め、グローバルな視野を併せ持つ生徒の育成」と、「自ら課題を設定し、他者と協働してよりよい解決に向け主体的に判断し、表現する力を身に付ける生徒の育成」を図る。</p>
<p>&lt;2 取組方法&gt;</p> <p>本年度文部科学省の「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）」の委託を受けたことにより、この新規の文科事業とコアスクール（学力向上）事業を併せてHAFプロジェクトとして展開していく。</p> <p>実施体制としてのAFプロジェクト会議を改編し、新たにコンソーシアム会議、運営・指導委員会を設置し、事業の企画・運営を進めていく。</p> <p>「総合的な学習の時間」（榛高タイム）に地域社会の人材を活用し、対話を重視した活動を協働的に行いながら、地域の課題解決に向けての探究活動を深めていく。成果報告会に向けて生徒の思考力、表現力を向上させる。</p> <p>昨年度理数科の生徒を対象に実施したイングリッシュキャンプを普通科にも拡大し、学科・学年の枠も取り払い、全体としての取組とする。また、定時制の課程に在籍する外国籍生徒と全日制の課程の英語部や希望者を対象に語学研修を行い、文化交流・異文化理解の場を設けるなど、特色ある課外活動を充実させていく。</p> <p>教員の指導力向上については、コアスクール事業に多くの教員が携わり、生徒の深い学びにつながる指導方法を身に付ける環境を整えていきたい。</p> <p>高大接続改革については、静岡大学教育学部との連携協定を締結し、積極的な人的交流を通じ、大学が求める生徒像について理解を深めていく。</p>

<3 成果指標と実績>			
成果指標	初期値	目標値	実績（評価）
①授業への取組 2年	31.5%	35.0%	35.6%
1年	28.1%	30.0%	37.3% (A)
①平日学習時間 2年	1.4h	2.0h	1.3h
1年	1.6h	1.8h	1.5h (C)
①休日学習時間 2年	2.1h	2.5h	2.5h
1年	2.1h	2.3h	2.0h (B)
③授業で力が 2年	4.2%	10.0%	5.9%
ついた実感 1年	6.7%	10.0%	11.6% (B)
①国公立大学の受験者数	170人	175人	140人 (B)
②外部との連携による探究活動への参加生徒数	407人	500人	475人 (B)
②大学進学を目的とした補習等への参加生徒数	2,369人	2,400人	2,395人 (B)
③国公立大学の合格者数	77人	80人	52人 (B)
①模擬請願者数	41人	245人	243人 (B)
②イングリッシュ・キャンプ参加者数	0人	32人	43人 (A)
③1月模試国数英全国平均偏差値	49.9	50.0	50.4
	49.4	50.0	48.3 (B)
③私立大学 MARCHの合格者数	8人	10人	7人 (B)
③CEFR A2レベル以上の生徒の割合			54人
③海外研修、ESLプログラムへの参加者数（修学旅行を除く）			36人

<4 特徴的な取組>

**イングリッシュキャンプ** 8月11日（日）～13日（火） 榛原高校



アメリカのチャップマン大学、カリフォルニア州立大学から講師8人を招き、英語でのコミュニケーション能力を高めること、異文化を理解することを目的に実施した。活動プログラムについては、英語科

教員とALTが立案し、講師たちと協議して実施。また、講師8人の生徒宅へのホームステイも行った。  
\*保護者アンケート 「イングリッシュキャンプは、榛高生にとって意義ある事業であると感じる」 95%

## 静岡大学教育学部との連携協定締結



7月16日に静岡大学教育学部との連携協定を締結し、人的交流を進めている。7月26日の総合的な学習の時間に実施された「企業人講話」を教職大学院の学生3人が訪れ、参観後に意見交換を行った。また、10月11日には、1年生が静岡大学教育学部を訪問し、模擬講義を受けた。

## 事前研修・事後研修



夏休み中に実施した海外研修（アメリカ）、国内研修（沖縄）の学びを深めるために、事前・事後研修を実施した。左は、静岡県立大学国際関係学部高畑幸教授の講義『国境を越える人の移動と「共生」の時代』。中央は、事業所訪問「小糸製作所静岡工場」。右は、研修成果報告会。

## <5 成果と今後の方向性>

昨年度から継続して取り組んでいる事業については、実績や課題を踏まえた活動を実施することができている。たとえば、「総合的な学習の時間」の評価方法では、昨年度作成したワークシートやルーブリック表等の改善が行われ、評価方法についての教員間の情報共有を進めることができた。また、イングリッシュキャンプでは、本年度は企画・運営を英語科が行うことで、コアスクール事業が終了しても継続させることができるノウハウを蓄積することができた。

事業への参加募集に対して、生徒がなかなか積極的に出てこないということが、9月に開催された運営指導委員会で話題になった。教員や保護者に勧められて参加した生徒たちも、実際の活動では意欲的に取り組み、達成感も感じて参加して良かったという感想を持つ者がほとんどであるが、募集段階では予想を下回る人数しか集まらない。部活動の調整、広報活動の充実に加え、参加を促す保護者の後押しを得ることが重要であるとの指摘を受け、事業ごとに保護者アンケートを実施して保護者の意向を理解することに努めている。多くの生徒たちがコアスクール事業に参加し、主体的・対話的な活動を通じて深い学びを経験して学力向上を果たせるようにしていく。



<1 テーマ>

## ICTを利用した学力向上への取組

(生徒一人一台タブレットを視野に)

<2 取組方法>

1 生徒の学力向上

(1)自己管理能力の育成

予備校講師による補習を実施し大学進学への意識づけの強化、生徒のメタ認知能力の向上

(2)総合的な探究の時間の充実化

探究的な学習活動を通して生徒の主体性や思考力を育成するための全体計画の策定

(3)進路目標の具体化支援

現役大学生との懇話会の実施、オープンキャンパス等大学訪問、研究施設の見学、大学進学ガイダンス「夢ナビライブ2019」への参加の促進

2 教員の指導力向上

(1)クラウドサービスを活用した授業の研究

クラウドサービスを活用した授業に係る研修会の参加および校内研修の実施

(2)主体的・対話的で深い学びにつながる授業研究

「Find! アクティブラーナー」等の活用、授業参観を通して指導方法の研究

3 高大接続改革

(1)大学入学共通テストの研究

国、数、英のみならず地公、理について研究会等へ積極参加して情報を収集

(2)英語4技能に応じた授業の研究

「Q-skills」の活用等を通して4技能のうち特にアウトプットを意識した授業の研究

4 成果の検証

クラウドサービスを利用した家庭学習時間調査の実施と模擬試験の結果の把握

5 その他

基本的にアンケート調査はクラウドサービスを活用し校務の効率化を推進

<3 成果指標と実績>

成果指標		初期値	目標値	H30 実績 (評価)
①授業への取組	2年	25.4%	30.0%	27.5% (C)
	1年	29.9%	30.0%	33.2% (A)
①平日学習時間	2年	1.3 時間	1.5 時間	1.6時間 (A)
	1年	1.3 時間	1.5 時間	1.3時間 (C)
①休日学習時間	2年	2.0 時間	2.5 時間	2.4時間 (B)
	1年	2.0 時間	2.0 時間	2.1時間 (A)
③授業で力がついた実感	2年	5.0%	5.5%	5.2% (C)
	1年	5.8%	6.0%	8.8% (A)
①国公立大受験者数		217 人	200 人	183人 (C)
②静大との連携による生徒参加数		42 人	42 人	42人 (A)
②大学進学を目的とした補習への参加生徒数(3年)		159 人	160 人	256人 (A)
③国公立大合格者数		94 人	100 人	79人 (C)
①授業でより深く学ぶことがほぼできた生徒		-	70.0%	83.7% (A)
①自ら計画を立て主体的に学習している生徒		-	70.0%	60.7% (C)
②大学合同進学ガイダンス参加生徒数		-	100 人	176人 (A)
③センター平均全国平均の1.03倍以上の科目		8 科目 (14 科目中)	10 科目	7 科目 (C)

< 4 特徴的な取組 >

**予備校講師による補習**



**「夢ナビライブ」**



**生徒の学力向上**

ICT活用

自己管理能力の育成

探究的の時間の充実

進路目標の具現化

**教員の指導力向上**

- クラウドサービスを活用した授業
- 「Find! アクティブラーナー」の活用

**高大接続改革**

- 大学入学共通テストの研究
- 英語4技能に対応した授業の研究

**現役大学生との懇話会**



**大学・研究施設訪問**



< 5 成果と今後の方向性 >

生徒に対して、自己管理能力の育成、主体的学習習慣の醸成、進路目標の具体化の3つの柱を軸に学力向上を図った。今後は、自己管理能力の育成に関し、メタ認知能力を向上させる取組に力を注ぎたい。また、引き続き高いポテンシャルをもつタブレット型ノートパソコン等のICTの活用を模索し、新たな「学び」のスタイルの確立について研究を進める。特に、今後外国語教育において柱となる、英語4技能5領域の育成については、ICTの特性を最大限活用することで、その成果は大いに期待することができる。

<1 テーマ>

常葉大学、予備校、地域との連携を生かしたキャリア教育の充実と生徒の進路実現のための学力向上を図る。

<2 取組方法>

手帳指導をさらに進める中で、4点固定（起床時間、下校時間、勉強を始める時間、就寝時間）に対する意識を高め、生徒が基本的な生活習慣を確立し、家庭での学習が確実に出来るような働きかけ、指導を継続して行う。

ベネッセとの連携によりClassiの有効活用のための講師招聘を行う。生徒の家庭学習時間の把握や学習に対する意識の変容を調査する。

夏季休業中に「100時間チャレンジ」を3年生で実施する。1日10時間の自主学習を10日間行う。1、2年生においては、通学勉強会をそれぞれ定めた期間で実施する。

地域との連携を推進し、生徒に身に付けさせたい力と目的を明確にすることにより、進路目標と志を育む教育を実践する。

常葉大学との連携の中で、防災についての探究活動を実施し、地域に貢献できる人材の育成を行う。

<3 成果指標と実績>

成果指標	初期値	目標値	実績（評価）
①授業への取組 2年	26.1%	30.0%	30.0%
1年	24.9%	30.0%	40.3% (A)
①平日学習時間 2年	0.61h	1.0h	0.60h
1年	0.80h	1.0h	0.79h (C)
①休日学習時間 2年	1.05h	1.3h	1.20h
1年	1.26h	1.5h	1.21h (C)
③授業で力が 2年	5.3%	8%	4.0%
ついた実感 1年	6.2%	10%	5.7% (C)
①国公立大学の受験者数	10人	20人	20人 (A)
②外部との連携による探究活動等への参加生徒数	0人	20人	0人 (D)
②大学進学を目的とした補習等への参加生徒数	445人	450人	663人 (A)
③国公立大学の合格者数	4人	8人	7人 (B)
看護・医療系の合格者数	47人	50人	55人 (A)
英語検定試験準2級の合格者数	9人	10人	18人 (A)
ICT機器を活用した授業を実施した教員数	19人	25人	20人 (C)
予備校等が主催する講習等へ参加した教員数	3人	4人	5人 (A)

<4 特徴的な取組>

北西プロジェクトの取組

浜北西高校のキャリア教育

1年「さがす」 → 2年「ひろげる」 → 3年「ふみだす」

3年間の指導計画  
付けたい力の共有

★身に付けたい4つの能力★

**人間関係形成・社会形成能力**

他者の個性を理解する力  
他者に働きかける力  
コミュニケーション・スキル  
チームワーク  
リーダーシップ等

**自己理解・自己管理能力**

自己の役割の理解  
前向きに考える力  
自己の動機付け  
忍耐力  
ストレスマネジメント  
主体的行動等

**課題対応能力**

情報の理解・選択・処理等  
本質の理解  
原因の追究  
課題発見  
計画立案  
実行力  
評価・改善等

**キャリアプランニング能力**

学ぶこと・働くことの  
意義や役割の理解  
多様性の理解  
将来設計  
選択・行動と改善等

教室に掲示  
手帳に貼付

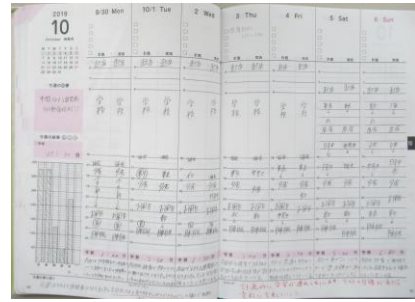
基礎的・汎用的能力

#### <4 特徴的な取組>

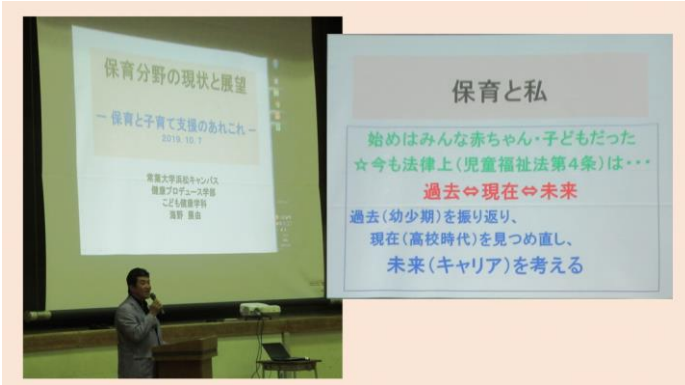
##### ○「手帳」による生活習慣の確立指導（全学年対象）

- ・「4点（起床・下校・学習開始・就寝時刻）固定」の指導
- ・家庭学習時間の可視化
- ・予定と実施の記録
- ・日々の反省の記録
- ・学年集会等での指導内容の記録

学級担任による個別指導



##### ○地域理解・地域課題解決講話（1年生対象）



「保育分野の現状と課題

—保育と子育て支援のあれこれ—

常葉大学健康プロデュース学部

こども健康学科 海野展由教授

キャリア教育の視点から  
保育実習に向けて

##### ○100時間チャレンジ（3年生対象）

1日10時間の自主学習を10日間

自ら主体的に学習に取り組むことにより、達成感とともに成果を上げることの実感を得、その後の学習への意欲を高める。



#### <5 成果と今後の方向性>

現時点では、まだ導入（試行、改善）段階のものもあり、教員や生徒に定着し、目に見える形での成果（数値、変容等）が出るまでにはある程度時間が必要である。また、効果が認められたものを、再来年度（コアスクール予算終了）以降どう継続していくか課題である。

学習環境整備、生徒の学力向上、教員の指導力向上という観点から、本校の進路課・研修課・教務課等の年間計画の中にコアスクールの事業を組み込んできた。しかしながら、それぞれの事業が単独で進められている部分もあり、相乗効果を期待するまでには至っていない。来年度は、昨年度話し合ったキャリア教育を中心とした「北西プロジェクト（身に付けたい4つの能力）」の下、同じ方向性を意識しながらコアスクール事業を進めていきたい。